

大反響!

感動の輪が
広がっています

売れてる本

■ ハルさん

藤野 恵美 〈著〉

ほのぼのの日常系ミステリー



妻がはやくに亡くなり、一人で育ててきた娘ふうちゃんは今、日結婚する。式場に向かう父の脳裏には、彼女の成長の過程で遭遇したいくつかの小さな事件の思い出が浮かぶ。ハルさんとは心優しいその父親の名前だ。

児童文学で人気を博する著者がはじめて大人に向けて書いた、ほのぼのした連作ミステリー。本作の編集者、桂島浩輔さんはミステリーの目利き。「書店で見かけた著作の作者紹介欄に好きな作家は（推理小説家の）法月綸太郎とあるのに興味を持ち、読んでみたらこれが当たりでした」。すぐに一般向けミステリーの執筆を依頼。読者対象を委ねるといふよりも、広げるものを」と提案したところ本書のプロットが上がってきたという。

幼稚園の友達のお弁当箱から卵焼きが消えたこと、小学4年の夏休み、植物図鑑を眺めていたふうちゃんが翌日失踪したと……。謎にぶつかると、天の妻が話しかけて名推理を發揮、ハルさんを助ける。娘の知らないところで交わされる夫婦愛、親子愛に満ちた会話が心温まる。「いわゆる幽霊探偵のパターンですが、亡くなった妻を探偵役にすることで、夫婦の思いと謎解きの描写を両立させたところが見事。冒険好きなふう

ちゃんも非常に魅力的です。文章も巧く、素直にいい話だと思わせます」と桂島さん。

2007年の単行本刊行当時、幼い娘を持つ同僚の男性たちに「泣いた」「卑怯な奴ら」「よかった」と言われたという。

今年3月の文庫化以降、その同僚が熱心に営業にまわり、現在毎月重版がかかっている。

終盤の結婚式の場面ではふうちゃんがなぜその男性を選んだのか、過去の親子の会話のなかにヒントがあったとわかって胸を打つ。現在読者は30〜50代の女性を中心だというのが、世のお父さんたちにもお薦めしたい。（創元推理文庫、756円11刷6万5千部）

瀧井 朝世

（ライター）